

田んぼの生物調査でたくさんの中華種が見つかっています。



スートリア
(南アメリカ原産)
大型のネズミ類で、水辺に巣穴を掘って暮らします。水田や畑での農作物被害や、畠に穴を開けてしまう問題があります。



ミシシッピアカミミガメ
(北アメリカ原産)
繁殖力の強さなどから定着が進み、今では市内で最も多くみられるカメとなりました。食べ物のや産卵の場所をめぐって競合し、在来のカメを追いやりてしまうことがあります。



ウシガエル
(北アメリカ原産)
水辺にすむ在来のカエルに比べて体がとても大きいです。は虫類や魚類、昆虫など様々な動物を捕食するため、在来種への影響が懸念されます。



カダヤシ
(北アメリカ原産)
見た目がメダカに似ているので間違われることがあります。整備された水路にも適応し、また繁殖力が強く成長が早いことから、メダカとは対照的に分布を広げています。

参考：愛知県『ブルーデータブックあいち2012』

他の地域から持ち込まれた生きもの（外来種）が、在来種をおびやかしています！
飼えなくなったペットを逃がしたり、他の地域のメダカなどを放すのはやめましょう。

なごや生物多様性保全活動協議会では田んぼの生きもの調査を行っています



なごや生物多様性保全活動協議会では、なごやの身近な自然の保全を目的として、田んぼや水路、周辺の河川などで、生物調査や外来種の取り除きを行っています。調査の結果、これまでに400種以上の動植物を確認しました。なかには、市内で初確認のクモも見つかっています！ これらの調査で、また新たな発見があるかもしれません。

今後も調査を継続して生物の記録を残し、なごやの生物多様性の保全につなげていきます。

市民生きもの調査員の募集

なごや生物多様性センターとなごや生物多様性保全活動協議会では、「市民生きもの調査員」を募集しています。市民生きもの調査員に登録いただいた方には、センターと協議会が取り組む生きもの調査や講習会のご案内、調査結果などをお知らせします。

詳しくは、協議会ウェブサイトをご覧下さい。

なごや生物多様性保全活動協議会

（事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター）

〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地

TEL 052-700-7792 FAX 052-839-1695

メールアドレス : bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

協議会ウェブサイト : <http://www.bdnagoya.jp>



平成26年1月 第1版発行



知っていますか？ 田んぼの生きものとその危機



田んぼや水路には、こんな生きものがいます



水路のコンクリート化



水路がコンクリートで整備され、田んぼと水路が分断されたことにより、カエルや魚などの行き来が難しくなってしまった。



しかし、田んぼと水路をつなぐ魚道を設置することで、生きものの行き来を助け、生息しやすい環境に近づけることができます。



他にも、田んぼから水がなくなる時期に水たまりが少しあるだけで、ヤゴやオタマジャクシなどが生き残れるようになります。

少しの工夫で、生きものの命を守ることができ、田んぼの生物多様性を豊かにすることができます。

鳥と田んぼの話

名古屋市港区にある南陽地区の田んぼは、日本最大級の渡り鳥渡来地である藤前干潟に近く、サギ類やカモ類をはじめとする鳥たちが飛来します。田んぼは鳥たちにとっても、休息や餌をとるために大切な場所です。



※田んぼなどに入って生きものを観察するときには、管理者の方に許可をもらいましょう。